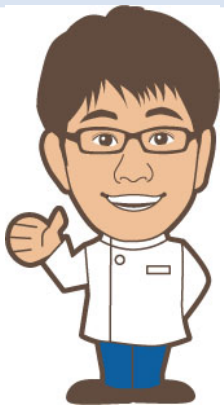
急性中耳炎

急性中耳炎の原因は、風邪です

1～3才児によく起こります
3才までの50～70%の子どもが少なくとも1回はかかります
耳の中に水が入って、中耳炎になるわけではありません

かぜ → 鼻汁がたまる 鼻をすする → 鼻汁が耳管から中耳に入り込む → 急性中耳炎

成長途中の小児は、耳管（耳と鼻をつなぐ管）が未発達で短く、太く、角度が水平に近いため、鼻汁の菌が中耳に入りやすいと考えられています



り耳鼻咽喉科

急性中耳炎の症状は

耳が痛い	耳だれ	発熱

乳幼児では痛みを訴えることができません！

以下のようなときは要注意です！！

- 夜、急に泣き出して眠らない
- 耳をよくさわる、耳に手あてるなど
- 鼻汁が多くて機嫌が悪いときは、特に注意が必要です

り耳鼻咽喉科

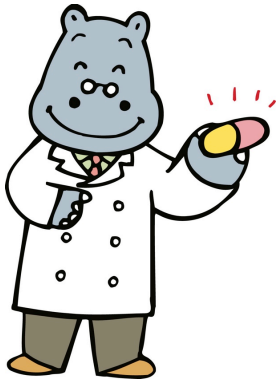
子どもが急に耳を痛がったら・・・

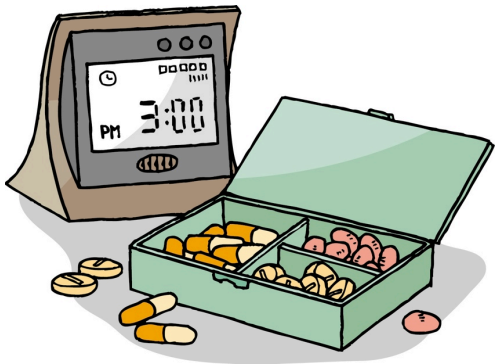
痛がってる方の
耳を冷やして
あげましょう

痛み止めを
使って下さい

坐薬と内服があります

緊急時のために痛み止めは、常備しておきましょう！！





り耳鼻咽喉科

急性中耳炎は痛みがとれても完治ではありません

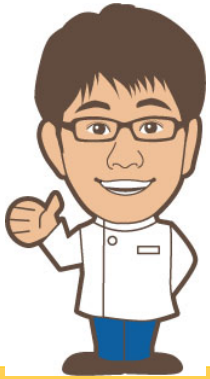
鼓膜チューブが必要
になることがあります

反復性中耳炎

- 1才までに中耳炎にかかると、その後、何回もかかりやすくなります
- 3才を過ぎると減ってくることが多いです

遷延性中耳炎

耳鼻科で完治してるかどうか確認してもらいましょう



完治させないと

滲出性中耳炎
になります

急性中耳炎

完治

通常は、数日から遅くても2週間程度で治ります

り耳鼻咽喉科

反復性中耳炎になるリスクファクターについて

薬剤耐性菌

- 抗菌薬が効きにくい菌が感染していることがあります
- 適正に抗菌薬投与されていないと耐性菌が出てきます

生活環境について

- 集団保育の早期開始、時間延長
- 受動喫煙
- 哺乳びんによる授乳、おしゃぶり使用
- 兄弟、姉妹から菌をもらうことがあります
- 授乳のときに子どもの頭を低くすると、お乳が逆流し中耳炎になりやすくなります

子ども自身について

- 特に2才未満の乳幼児は抵抗力が弱いです
- 鼻副鼻腔炎　アレルギー性鼻炎

り耳鼻咽喉科

反復性中耳炎のリスクファクターを避けるには・・・

薬剤耐性菌

- 適切な抗菌薬の投与が必要です
- 1ヵ月以内に抗菌薬を投与されたのに、また中耳炎になったり、鼻汁がなかなか治らないときは耐性菌の可能性が高いです

生活環境について

- どうしても治らない子どもは、保育園を半年～1年くらい休むことをおすすめします
- 兄弟が集団保育を受けている場合は、こまめに手洗い、うがいをしっかりさせて下さい
- 子どもがいる場所での喫煙は避けて下さい
- 授乳は子どもの頭を高くして行って下さい

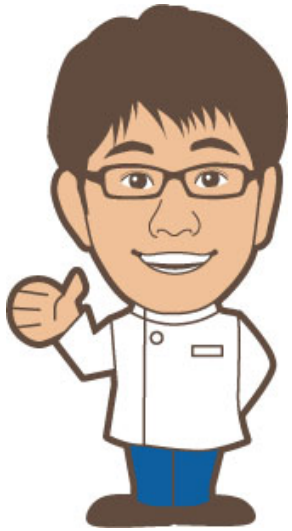
子ども自身について

- 母乳栄養
- 肺炎球菌ワクチン
- 十全大補湯という漢方薬を約3ヵ月飲む
- 鼻はこまめにかませて下さい（片方ずつ）

り耳鼻咽喉科

急性中耳炎の抗菌薬の種類と用量は、重症度別に決定します

重症度は、
鼓膜所見
臨床症状、年齢
で決まります



鼓膜所見
鼓膜の発赤
鼓膜の腫れ
耳だれ

臨床症状
発熱
耳痛の強さ
機嫌

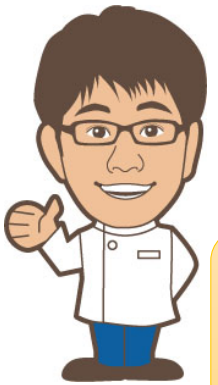
年齢
2才未満

重症度スコア → 軽症 / 中等症 / 重症

り耳鼻咽喉科

急性中耳炎の治療の中心は、抗菌薬投与です

処方された薬はしっかり飲ませて下さい



薬物治療

- **抗菌薬**
  投与後に下痢になることがありますが、水様便のようなひどい下痢でなければ、服薬を止めないで下さい
- 解熱鎮痛薬
- 点耳薬

鼓膜切開

- 鼓膜に小さい穴を開けて膿（うみ）を出してあげます
- 抗菌薬が効きにくい症例などにすることがあります

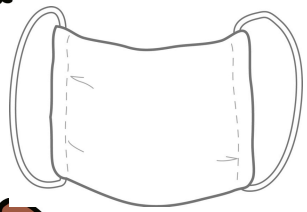
鼓膜チューブ挿入

- 反復性中耳炎の子どもに行うと、抗菌薬の使用量と通院回数を減らすことができます

- 重症度別に抗菌薬を選択します
  軽症では抗菌薬なしでも治ることがありますが、中～重症では高用量投与などが必要になります
- 鼻処置、ネブライザー治療することも非常に重要です

り耳鼻咽喉科

急性中耳炎で通院中の保護者の方へ



2才未満や保育園児の子どもは・・・

治りにくいことが多いため注意深い経過観察を行うとともに、より積極的な治療を行う必要があります

薬は自己判断で中止しないで下さい

耳の痛みがとれても完治しているわけではありません

かぜを予防しましょう

うがい

手洗い

マスク着用

鼻汁が出てるときは

鼻をすすりはやめさせて下さい

鼻をかませて下さい

ゆっくり、やさしく、片方ずつ

乳幼児で鼻がかめないときは、お母さんが鼻吸引してあげて下さい

り耳鼻咽喉科